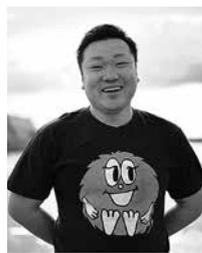


地域おこし協力隊 退任のごあいさつ

(任期：平成25年8月1日～平成28年7月31日)

「感謝」



水津地区担当
岩崎 貴大

私は佐渡生まれ佐渡育ち。佐和田出身で、地域おこし協力隊では唯一のUターンとして活動してきました。協力隊として活動した3年間は、自分の知らなかった佐渡の魅力を発見する機会が多く、逆を言えば、何も知らずに島を離れてしまったのではないかと思うくらい、素敵な場所やモノに出会いました。

地域での活動は、Uターンとしての視点を忘れず、「つなぐ」ということを意識した3年間でした。その中でも「柵田」と「庭先集荷」の二つの活動を中心に行いました。

柵田に関しては「佐渡柵田協議会」のサポートとして、情報発信や柵田米の販売促進活動、イベントの企画などを行いました。柵田を知り、そこでできるお米を食べ、そこに住む人につながる。個人的ではありませんが今後も柵田地域へ人をつなぐことを行っていききたいと思います。

庭先集荷活動に関しては、地域のお爺ちゃんお婆ちゃんの自家消費しきれない野菜を地域の学校給食やレストランへ納品しました。畑に行くために歩き、外に出て近所の人と話し、畑で体を動かす。畑仕事には元気がつまっています。そこにやりがいや生きがいを見出せる活動が、庭先集荷活動だと思っています。利益も当然なのですが、福祉的要素を強めていくことが、今後の課題と感じます。

地区全体を網羅できるような活動はできず、偏りがちになってしまった面もありますが、活動の中で進めて来たことに関しては、今後も協力隊とは別のポジションで、サポートしていけたらと思います。地域に入り、教わることの多かった日々。人生でなかなか味わえないような濃密な三年間を過ごしましたし、その分成長させて頂けたことを、心より感謝申し上げます。私達の世代が今後の佐渡を担っていかねければいけないという自覚を持ちながら、より一層精進してまいりますので、今後とも宜しく願います！

「隊員任期満了を迎えて」



赤泊地区担当
亀崎 正洋

私は赤泊地区で、遊漁船業による観光漁業の導入、地場で獲れた魚介類の製品開発を促進したいと野望を抱き、実現に向けゼロからスタートしました。

連日、遊漁に関心がありそうな漁業者のお宅を廻り、しばしば、門前払いを受ける事もありました。「言うは易しく、行うは難し」、人脈作りは島暮らしの基本であることを、最初に学びました。

そんな苦勞が実り、「あかどまり遊漁船協会」を発足。昨年は訪問者、44名と大きく実績をあげることができました。

一方、魚介類の製品開発については、まず、農水産物の消費拡大を考え、産地ならではの盲点に分かり、生食以外の調理を提案する事を考えました。簡単に美味しい調理法、まさに魔法です。私は燻製作りを提案し、中でも、簡単な「熱燻」は薫材の他、蓋付フラ

イパンと網でオーケーです。多くの方に覚えて頂いた頃、商品として売ってみようか、という自然発生的な意見のもと、地域の老人会さんとタッグを組み、地域の新星、「スモークハウス佐渡」を立ち上げました。地域にある閉園となつた保育園を借用し、利用されない地元の農水産品を原料に、何でも燻製にを合言葉に取り組んでいます。冬のタラ、コウグリ、アジ、イカ、春のワカメの茎、イナダ、タコ、タケノコなど何でもアリです。これから夏に向け、何ができることやら、目が離せません。乞うご期待です。

顧みて、この様な事を、地域の方々と、あーだ、こーだ、と3年近くやらせて頂きました。家族の様な近所さん始め、集落の方々、祭りやイベントで、いつも酒を酌み交わした兄弟姉妹のような赤泊の人々、私の人生のとても大事な、そして、大切な一頁です。これからも、赤泊を始め、島内の皆さんの幸多かれと思わずにはいられない日々を過ごしていきます。

島のごとく大きな思いやりと、母なる海のごとく優しい心へ、絶え間ない感謝の念を持って、「ありがとうございしました。」(合掌)